

「学力向上推進事業」について

1 はじめに

御嵩町では、平成14年度に教頭会を基盤とした学力向上推進委員会を設置し、児童生徒の学力の向上に取り組んできた。平成19年度からは「全体の学力の一層の向上」をテーマとした取組をスタートさせ、平成22年度には「学力向上推進事業」と名称を変更し、取り組む内容を下記の4観点からより明確にして実践交流や研究協議を積み重ねてきた。

「学校」・・・主に授業改善

「校種連携」・・・主に幼保小中高を見通した教育

「家庭・地域連携」・・・学校運営協議会の推進
地域学校協働活動の充実

「児童生徒」・・・自治活動の推進

特に「校種連携」では、中学校区ごとに小中交流会を年3回実施し、充実した連携を構築してきた。しかし一方で、児童生徒が主体的に学習に関わっていく姿や継続して取り組む姿に弱さが見られたため、平成25年度より、秋の小中交流会を「拡大交流会」とし、中学校区の交流会を持ち回りとして、町内の全職員及び町外や高等学校からの参加者も含めて交流の和を広げ、実践内容の共通理解を図ってきた。

2 校種連携の主な取組

御嵩町では、小中交流の枠を超えた校種間での連携にも力を入れている。今年度は、町内の東濃実業高等学校と東濃高等学校の生徒との交流を幅広く行ってきた。具体的な実践事例には次のようなものがある。

- ・小学校低学年を対象とした、生活科における水遊び学習の指導とサポート(※図1)

- ・小学校高学年を対象とした、家庭科の調理実習における指導とサポート
- ・中学生を対象とした、家庭科のミシン指導
- ・中学校の英語科での学習を対象とした、外国語を母国語とする生徒との交流学习

各月に行われる校長会において、年に2回、高等学校の校長も参加し、各校種における実践事例を交流する機会を設けたり、指導主事が校種間交流の場に足を運び、児童生徒の活動の様子を小中学校に情報提供したりすることで、小中学校から高等学校への生徒交流の依頼が増えてきている。現在は、町内のすべての小中学校が、高等学校との連携を行っている。

こうした取組によって、地元の高等学校に興味、関心を寄せる児童生徒が増えたり、中学卒業後に進学したいという思いをもつ児童生徒が増えたりしており、校種間での連携の良さを実感している。



図1 自校の授業で作成したおもちゃの使い方を説明する高校生の様子

3 学校運営協議会による特色ある学校づくりのサポート

町内の小中学校は、すべての学校に「学校運営協議会」が設置されている。運営協議会の委員には、学識経験者をはじめ、町議会議員、社会教育委員、公民館長、保育園長、主任児童委員、校区の学校職員など、様々な立場の方がみえる。それぞれの委員が、子どもたちのために何ができるのかを考え、多様な場面で学校の教育活動に参画し、地域学校協働活動の充実にもつながっている。

例として、次のような特色ある活動を行っている。

- ・地域講師を招く授業の企画立案や連絡調整
- ・農家の方を指導者とした農作業体験学習の支援
(※図2)
- ・家庭科の調理実習や裁縫での学習支援
- ・朝の挨拶運動

こうした活動は、学校運営協議会の方々的人的資源を活用して行っており、新たな取組へと発展してきている。教育委員会においては、各校の運営協議会の委員長と副委員長を一堂に招き、実践交流の場として、「学校間交流会」を位置付けており、その場での意見交流が、活動の広がりにもつながっている。

また、児童生徒は、地域の方々との交流を機に、地域への関心が高まり、地域行事等に積極的に参加したりボランティアとして活躍したりするなど、地域の一員としての自覚をより強くもてるようになってきている。



図2 地域の方を指導者としたさつまいもの苗植え活動

4 教職員の授業力向上に向けて

令和6年度、御嵩町内の小学校においては、通常学級に在籍しているが、通級指導教室での指導を必要とする児童の割合が13%であるという実態がある。これは全国の8.8%よりも高く、子どもたちに対してよりきめ細かい指導が必要であると捉えている。このような実態と、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教育委員会では、各種訪問時に参観した授業での指導の様子から、成果と課題を明確にし、現場で教職員の指導に必要であるポイントについて精査し、「御嵩町学力向上推進 指導のポイント6点」(※図3)を作成し、学校に発信することで、教職員の指導力向上に努めている。



図3 授業での指導のポイント

また、各月に行われる教頭会に「学力向上推進委員会(年に5回実施)」を位置付け、学力向上推進事業における4つの観点について、各校の実践の成果や課題について交流している。4つの観点以外にも、年に3回実施している小中交流会の進捗状況を確認したり、ICTや情報教育の実践交流、家庭学習の在り方などを交流したりすることで、町全体で成果や課題を共有し、各学校の指導に生かすことができるよう努めている。

こうした取組を通して、学力向上推進事業のローガンである、

「楽しいな 分かったよ できたよ」

を、子どもたちが実感し、笑顔があふれる御嵩町を目指している。